

昨年度印象に残ったこと
今年度の意気込み

ボランティアメンバーに聞いてみました！



春風

イベント出展時のレイアウトや、オンライン販売サイトへの掲載など試行錯誤しながら取り組んだことが印象に残っています。少しでも多くの人目に留まるように、工夫しながら取り組みました。来場者の方からエゾシカに関する体験談を聞けたりした時は嬉しかったです。今年度はプロジェクトに興味を持った人が参加できる機会を、昨年度よりもさらに増やしたいです！

ゆーせー



昨年度の印象に残ったことは、いっぺかだれやの会への参加です。浜益の地域住民らが地域の方向性や課題を話し合う公の場というものはまだまだ珍しく、日本有数の過疎地域ならではの挑戦に立ち会えたことに感動しました。今年度は、地域の魅力を発見したり、地域とともに課題に向き合ったりと、関係人口として地域に貢献していきたいと思っています。

そーじゅん



活動の準備で悩みに悩み、みんなで夜遅くまで話し合った記憶がたくさんあります。自主企画の『ごみのゆくえを見に行こう！』ではみんなから「面白かった」「企画してくれてありがとう」と感想が聞けたことが、とっても嬉しく心に残っています。今年度は、居心地のよい団体、活動を目指して頑張ります！たくさんの人が来てよかったと思ってもらえるように！

カイ



ポロクルのクルーと一緒に、自転車を活用した社会貢献の方法を考え、形にできたことが一番印象に残っています。自転車という一つのツールのもとに結束して議論を交わせたことは、ezorockだからこそできる経験だと感じました。とはいえ、話し合いの中では困難にぶつかることもしばしば。今年は、それらを一つひとつ解決しながらより良い対話の場をつくり、ボランティアの輪を広げていきたいです！

印象に残っているのはリレフェスの運営です。何度もミーティングを重ね、広報活動にも力を入れました。当日は、出展団体・参加者とも北海道内のあちこちの地域からオンライン空間に駆けつけていただき、いろんなつながりが新しく生まれました。今年度は広報・募集に力を入れ、より多くの人々が地域に関わり通ったりするきっかけを生み出していきたいです！

ガニー



10
代表の小言
「毎年以上取り組んでいるプロジェクト」。

この名称は、若者が薪を生産しながら、自らも成長していく姿を象徴する存在として、やっばり二宮金次郎だよね」という発想から生まれました。

名前は知っているけれど、何をした人かはよく知らない」という人も多いのですが、彼は、今で言えば「地域再生の請負人」のような役割を果たしていた人物です。のちに二宮尊徳と名を改めますが、そのスタイルは、上からの指導ではなく、地域の人々と共に食事をし、作業し、学び合うというものでした。

地域の人がと共々小さな成功を積み重ねていくリレーの姿勢は、いま地方創生に関わる人たちが、大切にすべき基本的な考え方ではないでしょうか。

(草野竹史)

NPO法人ezorock 会員向け情報誌 vol.43 2025.05

Rock The Life! ezorock

〒064-0809 札幌市中央区南9条西3丁目1番7号

TEL/FAX 011-562-0081 E-mail info@ezorock.org

WEB <https://www.ezorock.org/>

ezorockの最新情報が分かる
各種SNSはこちらから
@ezorockで検索



NPO法人
ezorock

NPO法人ezorock 会員向け情報誌

www.ezorock.org

Rock The Life! ezorock

2025.05
vol.43



2024年度報告レポート



今号の写真
2024年度の活動写真を集めました。

NPO法人
ezorock

ezorock 2024年度活動レポート

環境対策活動 Earth Care RSRオーガニックファーム



活動紹介 野外音楽フェスティバルや地域のお祭りにおいてごみの分別ナビゲートを実施。「ごみ」をツールに「Do It Yourself」の精神を伝えながら、自身で考え行動する社会を作る。

実施活動 【イベントにおける環境対策活動】活動日数12日のべ460人参加(RISING SUN ROCK FESTIVAL 2024 in EZO(以下RSR)、第59回石狩さけまつり、など)【オーガニックファーム】活動日数4日のべ31人参加【自主企画】活動日数5日のべ37人参加(プラスチックについて考える会、ごみのゆくえを見に行こう)【その他】活動日数3日のべ26人参加(「街中ゴミ拾い」イベントなど)

成果 自主企画で今までEarthCareとの接点が少なかったボランティアを巻き込み、ともに活動することができた。RSRにて企業、大学との連携ブースを実施し、802人の来場者に生分解性プラスチックについて伝えるなど新たな展開があった。

総括 自主企画から次のアクションプランへとつなげ、野外フェスなどでもその知識を伝えていきたい。また次年度はより多くの人にDIYの精神を伝えるために、活動の工夫をしたい(あさおくん)

エゾシカ皮活用プロジェクト EZOWOLF STORY



活動紹介 北海道各地で捨てられてしまうエゾシカの皮の活用を目的に、プログラムを通してエゾシカが置かれている現状やその背景を伝えることで、野生動物や自然環境との共生を一緒に考える。

実施活動 活動日数23日参加人数のべ96人(皮なめし体験2日/レザークラフト体験10日/地域プログラム2日/イベント出店など5日)

成果 販売サイトCreemaでページ開設することができた。また、レザー販売を強化するという目標をチーム内で共通認識を得ることができた。レザー販売数は伸び悩み、それに伴い裏すき体験の実施回数が少なくなるなどの課題もあった。製作流通フローに加えて、レザーの販路で工夫や取り組みが必要であることがわかった。

総括 革なめし・裏すきに興味ある人からの声が昨年度以上であったが、活動機会を作ることができなかった。レザー製品を置かせてもらった店舗が現れたり、幅広いイベントに出店できたことは昨年度からの進歩だった。(しん)

関係人口創出プロジェクト 179リレーションズ



活動紹介 北海道内の地域に関わる「入り口」をつくることを目的に活動。地域で活動する団体や自治体等とつながり、自然保護、自然体験、まちづくりを切り口に各地域の活動に参画。また、活動を発信するWEBマガジンの運営や、オンラインイベントを企画。

実施活動 活動地域数8地域、活動日数129日、参加人数のべ621人(東川町、苫小牧市、厚真町、鷹栖町、栗山町など)／オンラインイベント10日、参加人数のべ179人(リレフェス2024、リレスタ、関係人口全国フォーラム運営など)／WEBマガジン「179RELATIONS」掲載記事45本、閲覧数34,000ビュー

成果 地域と関わるきっかけを継続してつくることができた。また、WEBマガジンやオンライン関係人口フェスティバル「リレフェス」、リレポ・リレスタ等のオンラインイベントを通して、地域への入り口を多様な切り口から提供することができた。

総括 昨年度に引き続き、WEBマガジンの運営や地域活動への参加、オンラインイベントを定期的に続けることができた。また今年度からチームが統合され、各メンバーが広い視野を持って活動に関わることもできた。(カイ)

浜益ベース



活動紹介 石狩市浜益区にある一軒家「はまますベース」を滞在型活動拠点として、はまますベースの整備や、浜益に関わる人を増やすためのきっかけになる活動作りを展開した。

実施活動 活動日数61日、参加人数のべ231人、宿泊者のべ101人(きむら果樹園お手伝いプログラム、ゲストハウスはまますベースの整備、いっぺかだれやの会参加、お祭りのお手伝いなど)

成果 はまますベースを、浜益に関わる関係人口が快適に過ごしやすく維持するために、チームで整備を行った。また、ベースの整備に加え、果樹園の作業のお手伝いや、地域のイベントへの参加など、積極的に行うことができた。

総括 浜益での新しい取り組みが増えたことにより、活動が増えた一年だった。今後も浜益という地域の中での、自分たちのプロジェクトチームの役割や強みを考え、地域との連携を丁寧に図りながら、活動を作り出していきたい。(みさき)

活動日数 のべ327日 活動人数 のべ1808人 地域数 14市町村

シェアサイクル ポロクル 移動円満絵図「道楽」



活動紹介 【ポロクル】札幌市中心部で展開されるシェアサイクル・ポロクルの現場運営業務。【移動円満絵図「道楽」】(以下「道楽」)自転車、自動車、歩行者が移動を楽しく安全に行える社会の実現を目指した活動を展開。

実施活動 【ポロクル】ポロクルの現場運営223日、営業期間前後のポート設置撤去サポート、認定NPO法人ポロクルと連携した啓発活動への参加、ポロクルクルー登録数58人【道楽】ポロクルを使った自転車ツアー、TOWN PICNICにおける自転車ルール・マナー啓発活動補助、自転車修理・メンテナンス講座など(活動日数10日、参加人数のべ37人)

成果 【ポロクル】ユーザーが快適・安全に自転車を利用できる環境を提供し、通勤や観光など様々な場面の移動を支えた。【道楽】チーム名を変え再スタート。自転車ツアーや散走企画コンテストを通し、活動に関心を持って参加してくれる人がポロクルクルー中心に増加。

総括 ポロクル現場運営では、多くの方にポロクルが利用されていると昨年以上に実感した。道楽の活動では、自転車や移動に関する社会課題を解決する楽しさを感じた。(JAPAN)

その他取り組み

令和6年能登半島地震での支援事業

令和6年能登半島地震の支援活動に向け、4回のMTGを行った。現地に行った際、能登復興の力になるために、行く前に何をすべきかなどを話し合いながら、支援に関わることの心構えについても確認した。

民主主義ユースフェスへの参加

社会課題について話し合い、NPO/NGO/学生団体や各党政治家と若者が気軽に対話する機会を作ることを目的とした民主主義ユースフェスに、活動で得られる学びや楽しさを伝えることを目的としたブースの出展をした。

札幌国際芸術祭(SIAF)プレイベント ボランティアコーディネート

さっぽろ雪まつりにて実施したSIAFのプレイベントでアート作品の解説に関するボランティア研修、現場コーディネートを実施した。

南茅部地域世界遺産活用支援事業

函館市南茅部地区で活動を展開する地域おこし協力隊のサポート事業を実施した。縄文かるたの作成や地域住民向けのハンドメイドワークショップなどを実施した。

プロジェクト 「NINOMIYA」



活動紹介 紹介石狩をはじめとした各拠点で未利用材を活用し、薪割り体験を軸に新生産を実施。生産された薪は販売し、売上の一部は子ども向け体験補助へ。小規模でも循環型のエネルギーづくりとその普及啓発を行っている。

実施活動 活動日数58日/新生産量約13m³/薪販売件数24件約23立米/薪割り体験提供者数841人(内子ども120人)/イベント等での薪割り体験(RSR等のべ13日)/栗山町森林環境譲与税を活用した薪生産と里山整備事業(町民向けツアーのべ2日参加者数のべ13人)/福祉事業所との生産連携4件/IT企業内定者研修コーディネート

成果 美登位作業所での生産活動を再開したものの、定期的な活動はつくることができず活動日数は昨年より大きく減っている。一方体験提供者数はほぼ横ばいと、効果的な活動ができたと言える。薪にする玉材準備等の影響で生産量は落ち込んでおり、ボランティアが参画できる仕組みや生産体制整備が必要。

総括 プロジェクト立ち上げより薪割り体験を提供した総数が9,200人を超え、過年度通りの活動ができれば来年には1万人を超える。課題は多く残すが体制整備も含めた節目の年度としたい。(みつくん)

浜益での地域循環共生圏づくり 支援体制構築事業

石狩市浜益区で約40年前に地域の環境、歴史・文化等に着目した地域誌が発行されていた。過去の取り組みを引き継ぎながら活動する「浜益地域循環共生圏推進協議会(続ふかんぱ)」と共に、地域資源の活用検討や発信を行った。

コミュニケーションが苦手な学生の就職支援事業

函館市南茅部地区で活動を展開する地域おこし協力隊の札幌チャレンジとの連携事業として、4回の意見交換会を行った。のべ23名が参加し、仕事と普段のコミュニケーションの差について等考えた。

高校での授業展開

昨年度も実施した北海道札幌英藍高等学校の3年生を対象に探求の時間の中で、ezorock内のプロジェクトや道内で活動している連携団体の取り組み事例を紹介し、高校生自身が取り組みについて考えるプログラムを実施した。

サポートチームの取り組み



広報部 オンラインでの団体説明会を月2回定期開催し、155人が参加した。各活動やミーティングへの参加を促した。ニュースレターは、「札幌のまちと考えるモビリティ」として、ポロクルの現場運営の取り組みについてまとめたものを作成した。

交流部 メンバーの交流と事務所利用を促す目的に、ezorock事務所でのえぞごはんを毎週金曜に実施した。

研修部 今年度は事業を実施しなかった。

報道採録(一部抜粋)

- ・5月24日 文部科学省中央教育審議会 社会教育人材部会参考資料集(179リレーションズ/厚真)
- ・7月 広報さっぽろ(ボランティア橋本、渡辺)
- ・8月24日 読売新聞(浜益ベース/集落の教科書)
- ・9月20日 NHK北海道道(EarthCare/RSR環境対策活動)
- ・10月5日 朝日新聞(代表草野)
- ・11月26日 文部科学省社会教育士note(スタッフ水谷)

助成・補助金

- ・厚真町子ども応援基金(特定非常利活動法人北海道NPOファンド)
- ・事業再構築補助金(中小企業庁)
- ・地域循環共生圏づくり支援体制構築事業(独立行政法人環境再生保全機構)